

## 2025年度第2四半期決算 会社説明会 社長挨拶

## &lt;2025年度第2四半期決算および通期業績見通し、配当方針&gt;

2025年度第2四半期の連結決算は、計画に対して順調に進捗しており、市場価格の低下に伴う卸・小売事業における競争進展等の押し下げ要因はあったものの、島根2号機の安定稼働による収支改善や、中国エリア内外における需要獲得、燃料価格が低めに推移していることを背景とした燃料費調整制度の期ずれ差益の拡大により、前年同期から増益となりました。

今年度の業績見通しは、これまで公表していた予想に比べ、需給関連収支の改善や燃調期ずれ差益の拡大、送配電事業における基準接続託送収益の増や需給調整に係る費用の減などにより、経常利益は1,000億円、純利益は810億円に上方修正しました。

今後、為替・燃料価格の変動に加え、物価上昇に伴う資機材調達費用の増加、冬季の気温や米国関税措置の電力需要への影響など、収支変動に対するリスク管理を徹底するとともに、島根原子力発電所の安定稼働、市場を活用した収益獲得や経営全般にわたる効率化に努めることで、更なる利益の獲得を図ってまいります。

また、配当については、当年度の利益に対して12%を目安とした配当性向で行うこととしており、この方針と修正後の業績見通しを踏まえ、4月に公表した1株あたり年間21円から、1株あたり年間27円に見直し、中間配当は1株につき10円といたしました。

## &lt; PBR向上に向けた取り組みについて&gt;

次に、当社のPBR向上に向けた取り組みについてご説明いたします。9月30日に公表したグループ経営ビジョン2040でお示ししているとおり、当社は中国エリアにおける電力需要の増加や、島根3号機および柳井新2号機の稼働などによる将来的な成長を実現し、PBRの向上を図ることとしています。具体的には、2030年度以降の早期にPBR1倍を達成し、その状態を恒常化させることを目標として掲げており、その達成のためには、島根3号機や柳井新2号機の投資を進め、持続的な成長に向けた変革と基盤づくりを進めていく2030年度までの期間が非常に重要であると考えています。この点を踏まえ、2026年度からの次期中期経営計画は2030年度までの5年間を対象とし、資本効率と株価を意識した経営を推し進めていきたいと考えています。

資本効率の向上にあたっては、2030年度目標として掲げたROE8%以上の達成に向けて、島根3号機および柳井新2号機を計画通り運転開始することに加え、資産のスリム化やプロジェクトファイナンスの活用、さらには投資案件の優先順位付けによるキャッシュマネジメントの厳格化による総資産回転率の向上に向けた取り

組みの具体化を図っていきます。さらに、総資産回転率の向上と合わせて、高付加価値サービスの拡充や粗利拡大に向けた販売・調達戦略の深化、トレーディングの強化といった施策による売上高営業利益率の向上にも取り組んでいきたいと考えています。

PBRの向上に向けては資本効率の向上と同様に、将来の成長期待を適切に株価に反映させることも重要な課題と認識しており、サステナビリティ経営の推進に向けた取り組みや情報開示の充実化、および株主・投資家の皆さまとの建設的な対話活動を図ってまいりたいと考えています。

また、株主還元については、新たなグループ経営ビジョンの中でお示ししているとおり、2026年度からDOEの考え方を導入し、その具体的な水準についても財務基盤の回復状況などを勘案しつつではありますが、段階的に充実させていきたいと考えています。

#### <おわりに>

以上、PBR向上に向けた当社の取り組みと、その実現に向けた次期中期経営計画の方向性についてご説明しましたが、具体的な取り組みの内容については2026年4月に公表を予定しているAction Planの中でお示ししたいと考えています。本日、皆さまから頂戴するご意見については、経営でしっかりと議論し、中期経営計画の実効性向上やAction Planにおける開示の充実化につなげていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上